

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホーム はごろも		
所在地	岩手県奥州市衣川区古戸45番地		
自己評価作成日	平成23年7月2日	評価結果市町村受理日	平成23年11月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0372500553&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、四季のうつろいを感じられるように日々の散歩や外出の機会を増やしていくように努めている。
敷地内に同法人で運営する特別養護老人ホームや、廊下づたいに行政、社協、内科・歯科診療所があり、医療・保健・福祉の連携が図られており、ご本人・ご家族にも安心して入居して頂ける環境を整えている。
「ありのままのあなたに寄り添います」という理念のもと、入居者の個性を尊重して生活していただけるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、同法人の運営する特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、居宅介護支援事業所等があり、隣接して、保健・医療・福祉・行政等の立地条件にも恵まれ、連携が図られている。保育所と連絡を取り合いながら、園児の散歩コースにさせていただいており、利用者とのふれ合いとなっている。駐車場には大きな桜の木があり、地域のお花見等いいの場となるよう繋がりを大切にしている。運営推進会議では、委員から積極的な意見が出され、運営に反映されている。職員は業務の改善見直しに積極的に取り組み、質の高い誠実なケアの提供に努力されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今まで生活してきた一人ひとりの暮らの継続を目的とし、スタッフで話し合い、『ありのままのあなたに寄り添います』という理念を構築している。また、目に付く場所に掲示し、常に意識しながら個々にあった援助に努めている。	ホームが目指している「ありのままのあなたに寄り添います」の理念を玄関・ホールに掲げており、見直しについて話し合われたが、継続したいという意見を大切にしている。利用者のより良い暮らしのため希望に添うよう心がけて、常に職員間で話し合いその実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	各種行事等の際には地域の代表者等に声をかけて参加して頂いている。また衣川保育所とは連絡をとりあい、散歩のコース、お花見行事などで、使用していただいて交流の機会を設けている。地域のお祭りや、学校行事などの際には、見物に出かけたり、地域の文化祭には作品を出品している。	事業所近隣は、各種公共施設や勤めている方が多い住宅地であるが、保育園児の散歩コースに使用していただいており、当日もアウトデッキで利用者と交流している。	事業所は地域との関係作りの大切さを認識しており、駐車場をお花見に開放するなど様々な方策が練られ実施されている。今後も継続していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌に『認知症の豆知識』としての記事を掲載し、認知症を理解していただけるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況報告を行い、困っていることや悩んでいる事に関しての助言を頂いたりしている。ボランティアの活用、園児との交流なども委員の方々のアドバイスにより、開始となった。	運営推進会議では、利用者の健康状態、行事の活動結果と今後の取り組み等の報告のほか、ボランティアの活用方法についてのアドバイスを頂き、外出・収穫祭・夏祭りにお手伝いを頂き実施されている。	運営推進会議の議事録では委員から宿直を二人体制にしてはどうかと意見が出されており、運営主体には議事録の提出だけでなく、積極的な働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一つ屋根の下で建物が繋がっており、気軽に相談できる環境にあり助言、協力を得ている。	関係機関が隣接しており、行き来しやすい環境にある。事業所で散歩コースに危険なヶ所やベンチの修理、草刈りの要望等対応して頂き、気軽に話せる関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を受けた職員がおり、スタッフ会議等の場で身体拘束をしないケアを行うように確認に努めている。内容の理解については十分とは言えない面もあり今後理解を深めていきたい。玄関は施錠せず出入り自由だが、センサーにて出入りの確認できるようにしている。	外部研修を受講した職員は、職場内での学習会や資料で勉強会を実施している。職員会議で共通認識を図り、見守りしながら安心、安全の中で過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会は改めて行っていないが、職員・家族からの虐待防止とともに、入居者間の虐待等の防止にも努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム はごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して改めて学習会は行っていないが、現在利用している方が一名おり、制度に触れる機会はある。一度成年後見人制度への移行も検討されたがご家族が保留され、日常生活自立支援事業を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は、本人・ご家族の悩み、意向を尋ね、入居する事への不安の軽減に努めている。解約の際も十分な説明と話し合う機会をもち、理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活での会話を通し(利用者と一緒に入浴時など)本人の要望、不満を聴きだせるように心がけている。また、運営推進会議などで出された利用者の意見にも対応するように努めている。	利用者からの意見、要望は入浴時のリラックスタイムでの関わりを大切にしながら、思いを伝えられるよう心がけている。家族とは訪問時や面会時、また行事等の参加の際に意見交換をしている。運営推進会議では、利用者から日常生活のルール(トイレの使い方)の意見が出されており対応に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや定期的な月一度のスタッフ会議において、職員の意見や悩み、悩んでいる事などを話し合う機会を設けている。	毎日のミーティングで話し合われたものを、毎月のスタッフ会議に提案し、運営に取り入れるよう努めている。業務内容を変更(シーツ交換を一斉に行わず毎日二人分づつの実施)することにより、業務量の分散と利用者により良いケアが出来るよう工夫と努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	平成23年度より人事考課制度導入し、向上心を持ち業務に当たれる環境づくりを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH協会での交換研修や法人内外の研修に参加を促しており、研修受講後の報告の機会を設けることにより職員の育成を図っている。スタッフ会議において分からない点の学習も行っている。(技術的なことなど)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会での交換研修や定例会への参加を通じて他施設職員との交流や学ぶ機会があり、サービスの見直しにも繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に記入して頂く実態調査票や家族からの情報を得て、把握するように努めている。入居後1ヶ月間程度は、本人の言動と様子をより詳しく記録できる様式や「気付き」用紙への記録により、早期に関係づくりができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での問い合わせや申し込み時などに、ご家族が困っていること、不安な事、求めている事などを傾聴し、答えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時点で、サービス利用に関して各種情報を得ていないご家族には、在宅介護支援センターにつなげたり、高齢者支援ハウスの紹介や見学等の対応をしている。入居後も必要に応じて、利用していたサービスを継続支援(DS)できるよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に作業を行ったり、また過去の経験を披露して頂く場面を設けるなど、共に支えあいながら過ごしていくよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からの要望や、体調不良、物品購入の際は、その都度連絡し協力して頂くなど、なるべく足を運んでいただくようにしている。面会の際は本人とご家族が過ごせるよう居室にご案内し、近況報告を兼ねたアルバムを見ていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前利用していたサービスを継続して頂いている。また希望外出などで馴染みの場所や行きつけの店に出かける対応を行っている。	利用者の生活習慣を尊重するために、利用開始時に把握しており、「気付き用紙」に記述するなど職員全員で共有している。利用開始前にデイサービスを利用している方は現在も週1回利用し、継続に努めている。馴染みの店となっているジャスコ、床屋、美容院に出かけたり、利用者のお誕生日には、希望があれば外出の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方同士で過ごす場面を設定したり、入居者同士の和やかな雰囲気の際には見守りなどを行っている。食事の席や外出の際の乗車位置などにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された入居者のご家族に、ボランティアとして月に2回の訪問や行事のある時などにご協力を頂き、継続した関わりを持っていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や一対一になる入浴介助の際、個別の希望や、意向など聴くことに努め、日誌、スタッフ会議で話し合い対応している。(散髪、外出、行事等)	職員は利用者の担当を決めており、意向調査を実施しながら把握に努めて対応を検討している。特に入浴中の会話を大切にしている。家に帰りたい方、友人に会いたい方、食べ物の好み等それぞれ利用者の思いに添った暮らし方について話し合っている。意思を伝えられない方には、ジェスチャーで意思疎通が出来るよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネジャーからの情報や入居時の基本情報などで、個々の生活歴や暮らし、環境などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人ケース記チェック表など記録を通じ日々の状態把握に努めている。 また、朝夕のミーティングで一日の様子を報告し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者との話し合いをし、又スタッフ会議などで担当者からの状態変化等報告をし、話し合いをしながら、介護計画に反映できるようにしている。	スタッフ会議で、利用者の担当職員から状態変化の報告、家族等の情報を得ながら作成している。気づいたことなども毎月全員で話し合い、随時、情報の把握に努め、不十分な部分を見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やスタッフ会議などで担当者からの状態変化、様子などの報告で、話し合いを持ち介護計画に生かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化による通院介助や補充品の(衣類、おむつ、日用品)買い物、外出など行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム はごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員やボランティア団体を通じて、外出行事や習字教室などの際に支援していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期通院はスタッフが対応し、日頃の様子も報告できている。急変時には主治医に連絡を取り適切な医療を受けている。かかりつけ以外の通院に際は、本人の生活の様子の情報書類を家族に渡し、病院に持参している。	毎月1回の定期通院は職員が対応しており、その報告も家族に通知している。かかりつけ医は隣接の診療所としている利用者が多い。それ以外は家族が同行し、利用者の状態についての書類を渡している。急変時には主治医に連絡を取り適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化時や薬に関するの問い合わせなどには、併設の特養看護師の指示を仰ぎ協力を得ている。手指消毒も定期的に交換準備いただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの内科医との連携は普段から密に図られており、入居者が入院した際には、生活の様子や本人の嗜好などの情報を提供している。入院中は経過の把握に努め、退院時には今後の留意点を主治医に仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して来た際には、家族同伴にて通院対応を行い、主治医と話し合う場を設けている。事業所としての出来る援助と、現時点では看取り介護は出来ない旨を説明した上で、併設の特養等への申し込み手続きの援助を行っている。	契約時に看取り介護は出来ない旨説明をしているが、事業所として出来る限りの支援に取り組んでいる。また、隣接の特養ホームへの利用申し込み等家族等の不安がないよう手続きの支援に取り組んでいる。勉強会、研修会は今後の課題である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が内外の研修を受けているが、十分とはいえない。緊急時に自信を持って対応できるように、学習の場を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練実施し、地域防災協力隊の方にも参加いただいている。3月11日に東日本大震災を体験したが、災害対策(備蓄等)が十分にできていない現状である。	災害時対応マニュアルは法人で作成している。統合訓練には、地域防災協力隊(10名程度)も参加していただき、実施されている。反省点、注意点が活かされている。災害時非常用品も徐々に準備が出来つつある。夜間の訓練は実施されていない。	緊急通報装置での一連の動きが出来るように、また夜間では一人体制の誘導に限界があるので是非(夜間訓練を)実施されるよう期待する。災害時非常用品は早急に進めて頂くよう望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけ、対応に心がけている。トイレ介助の際は、一旦トイレ外に出て様子を伺い再び介助に入ったり、入浴時には陰部を自身で隠せるようタオルを渡したり配慮している。	目標達成計画を掲げ、1 身体拘束をしない 2 入居者の尊厳を損なうような介護をしない について確認表で全職員が共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活や運営推進委員会の場で本人の要望などを聞くことを心がけている。日々の生活においては、全員一緒に生活では無く、本人の意思を確認した上で参加していただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑や花壇に出かけたがる人には、出来る範囲で制限せず出かけていただき、距離を置いて見守りに努めている。個別にテレビを見る方や時に居室で横になって過ごす方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容院、美容院への外出援助、髭剃りの声かけや、化粧品を持参されている方への声かけなどをしたり、外出着の相談された際は、一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊事を好む人には調理に参加していただき、何かお手伝いしたいという人には、盛り付け、配膳、食器洗いなど役割を持ち参加していただいている。入居者参加型の行事食やおやつ作りをしている。	今年の6月から特養の厨房で調理されたものが届くようになり、盛り付け、下膳等出来る範囲内で利用者と一緒に食事の関わりを持っている。グループホームでは行事食やおやつ作りを楽しみにしている。	畑で採れたもの、ご近所の差し入れ等の材料を活かしながら、食材の購入、作る楽しみ、喜び、更には張り合いや自信に繋がるよう「食」を通じた様々な取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が献立を作成し、副食は特養の厨房で調理したものが届いている。摂取量、水分量などはチェック表を用いて管理しており、少ない場合は口にしやすい好みの物を用意して、出来るだけ多く摂れるよう工夫している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアに努め、出来ない方には介助、自力で行う方へは、さりげなく声かけや、確認を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム はごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、時間を見はからってのトイレ誘導ができており、トイレでの排泄に繋がっている。時に排泄を促す声がけする事で排便に繋がっている方もいる。	排泄チェック表での把握や表情で察知しながら、声かけ、誘導等トイレでの排泄が出来ている。現在のところオムツの使用はなく、リハビリパンツのみでの取り組みである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表の記録により便秘の方を把握し、場合によっては下剤での排便コントロールを行っている。 水分を多く摂っていただき、毎日の散歩、活動量に配慮して便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴になっており、当日気が向かない方は翌日に、また今入りたくないという方には出来る範囲で、時間をずらし入って頂いている。必要のある方は毎日入浴を実施し、一人ずつゆっくり会話しながらの入浴に努めている。	個々のバイタルがあり、毎日の入浴が可能である。異性介助も問題なく行われており、一对一の会話を大切にしながら楽しい入浴となるようにということ、そして清潔の保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の不眠や、疲れが残っているような際は居室で休んで頂くよう促している。 寝付けない状況の際は話をゆっくり聴傾し安心して頂くよう心がけており、暖かい牛乳などの飲み物を提供し入眠出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院からの処方箋を個人ファイルに綴じてあり、職員が常時確認できるようにしている。服薬準備の袋にも個別に個数などを記入し、服薬を確実に出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活を把握した上で、得意な事、できる力を発揮する場面作りを心がけている。(生け花、毎日のメニュー書き、畑仕事、玄関先の掃き掃除) 天気の良い日には外庭でのお茶を楽しんだり、釜戸でのご飯炊きを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の会話の中で、行ってみたいところを聞き漏らさず、要望を聞き、喜んでもらえるように取り組んでいる。 一人でのホーム一周散歩、セミナーハウス(図書館)に本を借りに行きたいなどの希望の方にも、出来るだけ要望に応じられるように努めている。	ひとりで押し車を押しながら毎日のように、ホームの周りの散歩をする方、毎月1回図書館へ行ったり、墓参りには2~3名の方が出かけられる。地域のボランティアの方々には、お花見に一緒に行くなどの協力が得られており、一人ひとりの思いに寄り添うよう支援がなされている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム はごろも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望によりお金を所持していた時期があったが、自分でしまった場所がわからなくなり、本人希望で、事務所に預けて必要時に渡す事になった。他の皆さんも、外出時に欲しい物がある際にはお金を渡して買えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいとの希望ある際には、ホームの電話の子機を使用して頂き、書く事の出来る方には、手紙、はがきを書く場面作りを心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間などに入居者の習字作品や生け花、装飾など飾り、できるだけ季節感を感じられるように配慮している。 居室窓には、強い日差しを遮る簾など下げている。	高い天井の共有空間に食堂がゆったりとした広さと畳の小上がりがあり、利用者はお昼寝をされていた。季節を感じるよう七夕が飾られており、ウッドデッキには、ゴーヤのグリーンカーテンが植えられて涼しげである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは居室で過ごして頂いたり、仲間同士が語り合える場所として、トイレ前のベンチ、畳の間、ソファ-2箇所、食卓テーブル等を設置している。その時々にお喋りをしたり、昼寝をしたりして、過ごしていただける。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や大切な人の写真、作品、表彰状等を掲示している。テレビや小物等も本人の馴染みのものを置き、個々に合った雰囲気になっている。	一人一人の大切なもの、馴染みの物が傍らに置くなどその人らしい居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや、屋内ベンチ設置、居室は、個々の状態に合った(静かな所、トイレに近い、見守りしやすい)場所に決め、出来るだけ安全に自立した生活が出来るように配慮している。トイレや居室ははわかりやすいように目印をつけている。		